

BERNARD

ビュフェ・リバイバルの時代がやってきた



《アトリエ》1947年 ベルナール・ビュフェ美術館所蔵

開館50周年記念展

ベルナール・ビュフェ
偉才の行方2023 11.25^[土] — 2024 11.24^[日] ベルナール・ビュフェ美術館開館時間: 10:00-17:00(3-10月) / 10:00-16:30(11-2月) *入館は閉館の30分前まで
休館日: 水・木曜日(祝・休日の場合は開館し、金曜日を休館)、年末年始(12月25日-1月1日)

年始特別開館: 1月2日(火)、3日(水)、4日(木) *開館情報は公式サイトでご確認ください

入館料: 大人1,500円(1,400円) / 高・大学生750円(650円) / 中学生以下無料 * ()内は20名以上の団体割引

主催: ベルナール・ビュフェ美術館・静岡新聞社・静岡放送 特別協賛:  スルガ銀行後援: 在日フランス大使館 / アンスティチュ・フランス、在日フランス商工会議所、静岡県教育委員会、
長泉町教育委員会、清水町教育委員会、裾野市教育委員会、沼津市教育委員会、三島市・三島市教育委員会

BUFFET

Prodigy's
Progress

開館50周年記念展

ベルナール・ビュフェ ^{い さい} ^{ゆく え} 偉才の行方

ビュフェ・リバイバルの時代がやってきた

ベルナール・ビュフェ(1928-1999)は、黒い輪郭線とモノトーンに近い色づかいで、1940年代後半に独自のスタイルを確立しました。彼の絵画は、見る人に驚き、不安、ショックを与えるだけでなく、第二次世界大戦で疲弊したフランス人の心を見事に映し出していると称讃されました。ビュフェはピカソに比肩する逸材と評され、その人気と名声は、1950年代末にピークを迎えることになります。しかし1960年代になるとビュフェの評価は一変。俗っぽい題材の選択や、時流に逆行する具象絵画へのこだわりが非難的となり、彼はパリの美術界から排除されていきました。

しかし1980年代になると、ビュフェの才能を称讃する声が再び聞こえ始めます。彼の芸術の真価を問い直そうとする動きが出てきたのです。そして2016年、長らく封印されていた全生涯にわたる回顧展がパリで開催されました。2020年代の今は、まさに「ビュフェ・リバイバルの時代」となっています。

開館50周年を記念する本展では、1940年代から最晩年にいたるビュフェ作品を通じて、20世紀最大のフランス人画家のひとりと言われたビュフェの偉才を再考します。

本展では全8章に分け、約70点の作品でビュフェ作品の変遷をたどります。

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 画家ビュフェ、そのはじまり | 5. エコルシェ／狂女 ― 噴き出す激情 |
| 2. ビュフェの初期絵画 ― 室内／静物 | 6. 異国の街と文化 ― 旅するビュフェ |
| 2. サーカス／闘牛／カルメン | 7. 地獄／虚構／死 ― 文学からの主題 |
| 4. 画家とその家族、愛する人たち | 8. 新しいモチーフを求めて |

【広報用画像資料】

広報用にお使いいただける画像をご用意しています。

お申込み、お問い合わせについては次ページをご覧ください。

クレジット表記は各画像下の内容をご利用ください。(原題表記が必要などの場合お問い合わせください)



1 《キリストの十字架からの降下》
1948年 油彩



2 《ニューヨーク：マンハッタン》
1958年 油彩



3 《皮を剥がれた人体：頭部》
1964年 油彩



4 《相撲：睨み合い》
1987年 油彩



5 《ドン・キホーテ、鳥と洞穴》
1988年 油彩



6 《コーヒーポットを頭にのせたピエロ》
1995年 油彩



7 《死 16》
1999年 油彩



8 《小さいミミズク》
1963年 油彩

【広報用画像資料申し込み用紙】

前ページ掲載の作品について画像資料（デジタルデータのみ）をご用意しています。

ご希望の場合は□にチェック ☒ を入れ、必要事項をご記入の上、FAXにて055-987-5511まで、
あるいは必要事項と画像の番号をE-mailにてinfo@buffetmuseum.or.jpまでお申し込みください。

お願い ・クレジット表記は前ページ画像下の情報をご利用ください。

・掲載誌一部をご送付ください／掲載サイトのURLをお知らせ下さい。

・取材にご来館くださる場合は事前に担当者までご一報ください。

貴媒体名

掲載号

発売・公開日等

年

月

日

貴社名

ご担当者名

Tel

Fax

E-mail

ご住所

☐ 1 《キリストの十字架からの降下》
1948年 油彩

☐ 2 《ニューヨーク：マンハッタン》
1958年 油彩

☐ 3 《皮を剥がれた人体：頭部》
1964年 油彩

☐ 4 《相撲：睨み合い》1987年 油彩

☐ 5 《ドン・キホーテ、鳥と洞穴》
1988年 油彩

☐ 6 《コーヒーポットを頭にのせた
ピエロ》1995年 油彩

☐ 7 《死 16》1999年 油彩

☐ 8 《小さいミミズク》1963年 油彩

FAX : 055-987-5511 / E-mail : info@buffetmuseum.or.jp

【お問い合わせ】

展覧会担当：雨宮（あまみや）
井島（いしま）
杉崎（すぎざき）

ベルナール・ビュフェ美術館
静岡県駿東郡長泉町東野クレマチスの丘 515-57
TEL 055-986-1300
info@buffetmuseum.or.jp

GENERAL INFORMATION



所在地 〒411-0931 静岡県長泉町東野クレマチスの丘 515-57 TEL 055-986-1300 FAX 055-987-5511

入館料 大人：1500円 高・大学生：750円 中学生以下：無料

この料金で全館をご覧ください。 ※20名以上の団体は100円引き

休館日 水曜日・木曜日（祝・休日の場合は開館し金曜日を休館）

【年始特別開館】2024年1月2日（火）、3日（水）、4日（木）※大型連休時等の開館情報は公式サイトでご確認ください

開館時間 10:00-16:30（11月-2月）10:00-17:00（3月-10月）※入館は閉館の30分前まで

アクセス 自動車の場合 新東名・長泉沼津 I.C. または東名・沼津 I.C. →伊豆縦貫道（東駿河湾環状道路）→長泉 I.C. 出口 R246を右折／「城山」交差点左折／静岡がんセンター方面へ（新東名長泉沼津 I.C. より約5km）

<https://www.buffet-museum.jp/>

同時開催

2023年11月25日（土）～2024年1月21日（日）

ベルナール・ビュフェ 版画展

ベルナール・ビュフェは油彩画家として知られていますが、たくさんの版画作品も残しています。なかでも、リトグラフとドライポイントという技法を好みました。版画を制作するときのビュフェは、油彩を描く時とは少し異なった取り組みかたで、まるで子どものように純粋に描くことを楽しんでいました。ビュフェが楽しんで制作した版画の中から、本の表紙などに使われ広く知られるようになったもの、当館との関わりで生まれたものなど、バリエーション豊かな作品群をご覧ください。